

魅力あふれる造形の世界

魯山人誕生130年「魯山人の宇宙」展

11月10日から12月15日まで、都市立美術館で魯山人誕生130年「魯山人の宇宙」展が開催されました。陶芸や書、絵画など幅広い分野において斬新で個性的な作品を生み出した北大路魯山人。「美と食の巨人」魯山人の九州初公開となる作品や愛用したテーブル、夢境庵と名付けられた茶室などが展示されているとあって、連日多くの来館者でにぎわいました。川口万喜子さん（霧島市）は「実物は初めて見ましたが、素朴ながらも料理が際立ちそうな器にひかれました」と話していました。



九州各地のおいしい楽しいが大集合

ココカラマルシェ

11月17日、高城観音池公園でココカラマルシェが開催されました。マルシェとはフランス語で市場の意味で、九州各地から雑貨や食べ物などを扱う83店舗が出店。約2万人が詰め掛け、雑貨やアンティークなどの面白い物のほか、パルーンアートや、自動車とダンボールをキャンバスに見立てて絵を描くアート体験などの催しを楽しんでいました。主催者の一花さんは「来場してもらった皆さんの笑顔がうれしい。地域を代表するイベントに育てていきたい」と意気込みを話していました。



音楽の力でまちを元気に!

都城音楽祭2013

都城をもっと元気にしたいという思いで企画から運営まで市民が手作りで行う都城音楽祭が11月17日、総合文化ホールで開催されました。本市出身のアーティストなど10組が出演したコンサートに、市内外から約900人が来場。来場者らは、演奏に合わせてリズムを取ったり、口ずさんだりしながら、さまざまなジャンルの音楽を楽しんでいました。実行委員長の種子田義男さんは「まちや人が元気になるようなイベントを企画してまちづくりに貢献したい」とこれからの思いを話していました。



あなたが決める郷土の味

がねコンテストinせきのお

郷土料理「がね」の味を競うがねコンテストと、庄内地区まちづくり協議会が設置した休憩所やベンチの披露が11月17日、滝の駅せきのおで行われました。来場者が、がねを試食し、一番おいしいと思う店舗に投票し、1位が決まるこの企画。県内外から約2,500人が訪れ、工夫を凝らしたがねに舌鼓をうっていました。また、休憩所やベンチの披露では、同協議会会長の釘村美千也さん（庄内町）は「滝を見に来た人に利用してもらい、のんびり過ごしてほしい」と思いを話していました。



オーケストラと夢の共演

時代を担う子どもたちの文化芸術体験

中霧島小学校で11月20日、次代を担う子どもたちの文化芸術体験が行われました。優れた舞台芸術などに触れてもらうことで、子どもの豊かな情操を育もうと企画。児童らは、東京ニューシイ管弦楽団の演奏を聴いた後、実際に楽器に触れて音を出したり、演奏に合わせて校歌などを全員で合唱したりして、音楽の楽しさを肌で感じていました。松元駿輔くん（6年）は「演奏に合わせて歌うことは二度とない経験。小学校生活の楽しい思い出ができました」と貴重な体験に感動していました。



歴史絵巻さながらのパレード

島津発祥まつり

11月16日から24日まで都城島津邸など市内各所で、島津発祥まつりが行われました。出陣式に始まり島津家史跡めぐりなど、歴史と文化を体験できる同祭。23日に行われた明道館パレードでは、都城島津家当主にふんした騎馬武者や戊辰戦争で活躍した私領一番隊、子ども武者などの行列が、神柱公園までの道のりを練り歩きました。鎧武者にふんしたザック・スコットさん（延岡市）は「鎧が重かった。これを身に着けて戦った人は大変だったと思う」と戦国時代へ思いをはせていました。



笑いあり涙あり郷土への思い満載

映画「あさひるばん」完成上映会

宮崎県内を舞台にした映画「あさひるばん」の上映会が11月23日、市内の映画館で行われました。同映画は、本市出身のやまさき十三さんの初監督作品。会場には、同級生や親せき、ファンなどが訪れ、スクリーンに見慣れた都城の景色が映し出されると、来館者らは大きくうなずいたり、身を乗り出したりして鑑賞していました。やまさき監督は「この作品は、40年間の思いがこもった作品。皆さんの協力で自信の持てる作品ができました」と郷里への思いと感謝の気持ちを話していました。



都城の魅力をギューッと凝縮！

まちなかフェスタ

まちなかフェスタが12月1日、中心市街地の千日通り、中央通り3・12番街など5つの通りで開かれました。無料で鍋をふるまう通り会対抗鍋合戦や、各通り会イチ押し商品を限定販売する商店街一品セールを開催。また、クリスマスイルミネーション点灯式なども行われ、家族連れなど約1万5,000人の人出でにぎわいました。阿部千尋さん（八幡町）は「イベントに初めて来ましたが、中央通り周辺には楽しい店がたくさんあることを改めて知りました」と話していました。





寄り添いながら 50 年
都城点訳・音訳友の会

徳永 セツ子 さん



視 覚や聴覚に障がいがある人が読む本などを点字にしたり、音にしたりするなどの作業を行っている、都城点訳・音訳友の会。会の発足に尽力したのが徳永セツ子さん（都北町・83歳）です。教員だった父親の影響で、幼い頃から本を読む機会が多く、自然と本が好きになった徳永さん。20代の頃、点字を紹介するニュース映画を見て、目の不自由な人にも読める本があることを知りました。当時は、点字を学べる場所がなく、それから10年が過ぎた頃、住んでいた大分市で点字協会設立の新聞記事を見つけ、勉強する機会に恵まれました。

視覚に障がいのある人にも本を読んでもらいたいという強い思いが点字を学ぶ原動力になり、その後、約4カ月間、通信教育で点字を学びました。

6つの点の組み合わせで一つの文字を表す点字は、単に文字を打つだけではなく、文法や文節を考へながら点字に打ち変えるため、文庫本1冊を点訳するのに、点字図書では何冊にもなり、連載本ともなると何10冊、何100冊にもなることもあります。

パソコンが導入された10年程前から、作業は軽減されましたが、

手打ち点訳が基本と話す徳永さん。現在も、点字盤を使つての点訳作業も続けています。



「人を喜ばせることで、その喜びが自分に返ってくる」という母親の言葉を胸に、思いやりを持ちながら点字に関わる全ての人に自然体で接しています。

現在、点訳活動の拠点になっている点字図書館は、失明し視力を失った人たちが点字を学ぶだけではなく、生活状況を話したり、趣味の活動をしたりする場でもあります。「今後も活動を続ける仲間と共に、皆さんに寄り添いながら、一緒に楽しく点字を続けていきたい」と、視覚に障がいのある人への思いを話していました。



今回は、湧水町にあるJR九州吉都線と肥薩線の分岐駅「吉松駅」を紹介します。

■吉松駅

JR九州吉都線（吉松～都城）と肥薩線（隼人～八代）の分岐点にある吉松駅（湧水町）は、明治36年開業以来、昨年で110年を迎えました。開業当時の、日豊本線と鹿児島本線の分岐駅となり、鉄道の要衝として諸施設が建設。一寒村に過ぎなかった吉松は一躍鉄道の町として、人や地域のつながりを生み出し、町の産業経済も大きく発展しました。

国鉄の民営化など時代の変化に伴い情勢も変わりましたが、町民は鉄道と深い関わりを持ってきました。



昭和40年代頃の吉松駅

はC51形、C55形、昭和40年代になるとC55形、C57形、D51形が主力機関車として霧島山麓を疾走。昭和40年代には吉都線を経由し、宮崎～熊本～博多まで急行「えびの」、特急「おおよど」も運行され、地域の交通や物資の輸送面で重要な役割を果たしてきました。



勇壮に並ぶ蒸気機関車

■駅舎

昭和43年に現在の駅舎に建て替えられたその周辺には、蒸気機関車C5552が展示され、また、100年前の石蔵や資料館もあり歴史の重みを感じさせます。

町の特産品を販売している「観光SL会館」では食事でもでき、ホルモン煮込みを使った「ぽっぽ井」やホルモンみそ煮がおすす（共に土・日曜日限定）です。

次の停車駅は、えびの市です。

◎問い合わせ

湧水町総務課
☎0995-74-3111

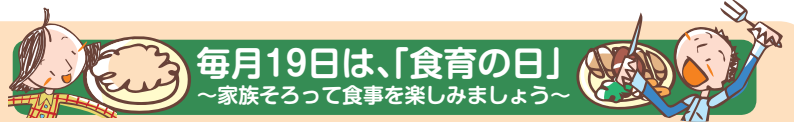
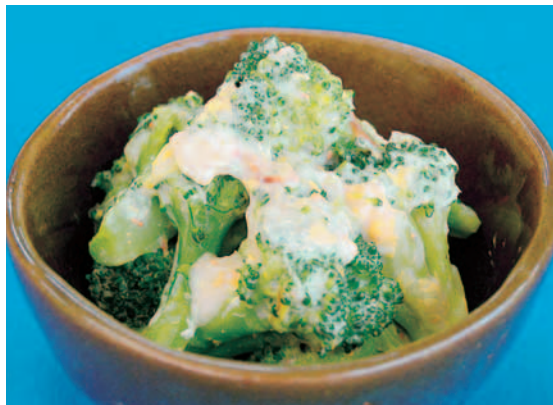
※環霧島圏域のイベント情報を、市ホームページで紹介しています



盆地生まれの 元気 をいただきます



ブロッコリーは、ビタミンBやC、カロテン、葉酸など多くの栄養素が含まれています。中でも、葉酸は、貧血や動脈硬化の予防に効果があります。



ブロッコリーのカニあんかけ

※1人分 116kcal、塩分 1.0g

●材料（4人分）

- ブロッコリー…300g ネギ…20g ショウガ…10g
- カニ缶…1缶 サラダ油…小さじ1
- 卵黄…1個分 片栗粉…大さじ1 水…大さじ1
- A { 水…100cc 牛乳…1カップ コンソメ…小さじ2 }
塩…小さじ1/4 こしょう…少々

●下準備

- ブロッコリー…小房に分けてさっと塩ゆでする
- ネギ、ショウガ…薄切りにする
- 片栗粉に水を混ぜておく

●作り方

- 鍋にサラダ油を熱し、ネギとショウガを炒め、香りが出たらブロッコリーを入れる。Aで味を付け、カニを加えて少し煮込む
- ①に水溶き片栗粉でとろみを付け、卵黄をほぐし入れる
※水溶き片栗粉は、鍋に入れる前によく混ぜ合わせる



ブロッコリーの代わりに、チンゲン菜や白菜などを使っても違った食感を楽しめます。

◎問い合わせ 健康課 ☎23-2765